日（日曜日）　北海道新聞　2010.7/18.　第3種郵便物認可

出口のない夢　アフリカ難民のオデュッセイア　クラウス・ブリンクボイマー著

1967年生まれ。独週刊誌「シュピーゲル」で活動。邦訳された著書に「海に眠る船　コロンブス大航海の謎」がある。

「楽園」目指す決死の旅

評・林　克明（ジャーナリスト）

ヨーロッパとアフリカを隔てる幅14キロのジブラルタル海峡で、毎年ゴムボートに乗った2千人のアフリカ難民が溺死する。内戦、革命、貧困、宗教対立、汚職、因習…に疲れ切った彼らが〝ヨーロッパというパラダイス〟を目指す旅の途上で力尽きるのだ。

ガーナ出身のジョン（46歳）は、妻子を故郷に残し、死線を超えて4年がかりでスペインにたどり着いた。10年後に知り合った本書の著者であるドイツ人ジャーナリストとともに、ジョンは14年ぶりに故郷へ帰還し、家族と再会を果たす。その後2人は、難民ルートをあらためてたどる第二の旅を始める。ジョンが移住したスペイン南部に至る5846キロの旅だ。

行く先々でパラダイスへの途上にいる難民たちに出会う。彼ら一人ひとりの人生、通過する各国の現代史、そして車窓から見えたであろう海岸線、熱帯林、延々と続くサハラ砂漠の風景が交錯する。

サハラ砂漠で倒れた人は、熱砂と渇きに耐えられずガソリンを飲んで死に、ある人は目的地を目前にしてゴムボートが転覆して命を落とす。ある者は、何度も拘束され強制送還され、危険に直面しても、また過酷な旅を続ける。あたかも出口のない迷路をさ迷うかのように。その迷路から脱け出す確実な手段は、パラダイスに移住する夢を捨てることである。それなのに、なぜ夢を求めるのか。ある男は言う。

「私は生き延びることができる場所に行こうと思ったのだ。要求が高すぎるってことはないだろう？」

1518年に最初の奴隷船が出航して以降、ヨーロッパ人は「下等人間」2900万人を拉致・輸出し、その後長期間植民地支配した。その傷は今も癒えていない。ヨーロッパもかつては暗黒時代を経験し、何百年もかけて市民社会を築きあげた。多くのアフリカ諸国が独立したのは1960年代以降。新しい歴史は始まったばかりなのである。

渡辺一男訳。

（新曜社　3360円）